

精密機械・ フジオプチカル

βチタンのパイプ量産

12年内めどに技術確立

【京都】二九精密機械工業(京都市南区、二九良三社長、075・661・2931)は、

フジオプチカル(福井県鯖江市)と共同で、βチタン合金パイプの量産技術を確立する。約2億円を投じて、京大桂ベンチャープラザ(京都市西京区)内の研究室に独自仕様の機械約10台を8月までに順次導入。2012年内をめどに量産技術を確立し、本格的な事業化を目指す。15年度にはβチタンパイプ関連の売り上げを、現在の約46倍、37億円へ拡大を目指す。

βチタン合金は軽量で耐食性が高く、バネ性や生体適合性にも優れる。こうした特長を生かし、分析機器などの医療機器から高齢者のつえ、スポーツ用品まで幅広い用途に売り込む。

量産技術の研究に伴い、京大桂ベンチャープラザの研究室を拡大。現在の1部屋を4月めどに計4部屋に増やし、研究室を従来の5倍近い約210平方メートルへ広げる。研究員は専任1人から4人

へ増員済みで、今後も順次増員する。

βチタンはパイプ化が難しい素材だが、同社は

内径3ミリの細いパイプを継ぎ目なしで生産できる独自技術を持つ。現在は一部工程を外注し、小規模で生産している。全工程自社で量産する技術を確立することで、納期要求にスピード対応できる体制を整える。

穴あけ、圧延、研磨といった加工を行う独自仕様の

の機械を導入予定。量産技術確立後は、新工場を設けて大量生産を始める計画。βチタンパイプをベースにパーツやユニットを加え、最終製品に近い形での販売を目指す。同事業は、京都府の「10年度京都企業戦略的共同研究推進事業」採択事業。